

# スターハブ(STAR)

2019/12 通期の配当性向目標は 80%、中国通信大手 3 社と国際データチャンネル(IDC)関連事業で覚書締結  
シンガポール | 通信事業者 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG: STH | REUTERS STAR.SI

- 8/6発表の2019/12期2Q(4-6月)は、売上高が前年同期比7.4%減の5.52億SGD、EBITDAが同5.7%減の1.46億SGD、営業利益が同32.0%減の5,730万SGD、純利益が同36.1%減の3,950万SGDだった。
- 通期会社計画は、サービス売上高の成長率を横ばいから▲2%、サービスEBITDAマージン比率30-32%、配当性向が80%である。
- 9/11に開始したシンガポール・中国(重慶)国際データチャンネルでは、中国通信大手3社とIDC関連事業で覚書を締結した。

## What is the news?

8/6発表の2019/12期2Q(4-6月)は、売上高が前年同期比7.4%減の5.52億SGD、EBITDAが同5.7%減の1.46億SGD、営業利益が同32.0%減の5,730万SGD、純利益が同36.1%減の3,950万SGD。エンタープライズ事業は伸びたものの、モバイルやPay TV、ブロードバンド、機器販売が落ち込んだ。総費用は同3.5%減の4.95億SGD、総費用率は89.6%と前年同期の85.9%から悪化。なお、サイバーセキュリティサービスで▲90万SGDの営業赤字を計上しており、これを除くベースの営業利益は5,810万SGDと前年同期から219万SGDの減益となった。サービスEBITDAマージン比率は31.8%と前年同期から1.6%pt上昇。会計基準の変更により押し上げた。これを除くベースでは27.7%と前年同期から2.5%pt低下した。

売上高の内訳は以下の通り。①モバイル通信は同9.9%減の1.92億SGD。音声通話やデータ通信、データローミングが減少したほか高付加価値サービスが低調だった。②Pay TVは同23.6%減の6,470万SGD。③ブロードバンドサービスは同2.2%減の4,510万SGD。④エンタープライズ事業は同14.6%増の1.40億SGD。うち、国内リース回線やマネージドサービスが落ち込んだネットワークソリューションが同4.2%減の1.04億SGDと減少したものの、サイバーセキュリティサービスが同2.6倍の3,620万SGDと伸びた。④機器販売が同15.4%減の1.10億SGD。

## How do we view this?

通期会社計画は、機器販売を除くサービス売上高の成長率が横ばいから▲2%、サービスEBITDAマージン比率30-32%、資本的支出が売上高の11-12%(帯域周波数への支出2.82億SGDは除く)、配当性向が80%。2019/12通期は四半期配当を1株当たり0.0225SGDとする計画で、年間配当は0.09SGDとなる見込み。シンガポール情報通信メディア開発庁は9/11、シンガポールと重慶を結ぶデータ通信網を構築するプロジェクト「シンガポール・中国(重慶)国際データチャンネル」を開始すると発表。シンガポールと中国西部の通信網を整備する取り組みである「戦略的な接続に関する中国・シンガポール(重慶)デモンストラレーション・イニシアチブ」の一環。同社は中国電信と中国移动通信、中国聯合通信とIDC関連事業で覚書を締結した。

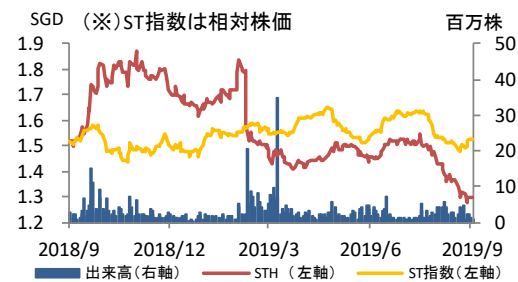
配当予想(SGD) 0.10 (予想はBloomberg)  
終値(SGD) 1.35 2019/9/12

## 会社概要

1995年にケーブルテレビ事業で創業。2000年に会社設立。世界クラスの通信、エンターテインメント、デジタルソリューションを提供するシンガポールの大手通信企業。広範な光回線およびワイヤレスインフラストラクチャーとグローバルパートナーシップにより、質の高いモバイル通信サービスと固定通信サービス、幅広いコンテンツや多様な通信ソリューションを個人・企業向けに提供している。さらに、人工知能(AI)やサイバーセキュリティ、データアナリティクス、モノのインターネット(IoT)、ロボット工学などを組み込んだソリューションの開発も行い、企業や政府機関に提供している。2004年からシンガポール取引所のメインボードに上場した。持続可能な環境に配慮した方法で事業を行うことにコミットしており、SGXサステナビリティ・リーダーズ・インデックスおよびSGXサステナビリティ・リーダーズ・エンハンスド・インデックスの構成銘柄となっている。主要な子会社には、モバイル向けに3G・4Gネットワークを提供するStarHub Mobile Pte Ltd、シンガポールでメディアおよびブロードバンドを提供するStarHub Cable Vision Ltd、シンガポールの次世代全国ブロードバンドネットワーク(Next Gen NBN)のアクティブインフラストラクチャーの設計・構築・運用を担うNucleus Connect Pte Ltd、シンガポール、マレーシア、香港でサイバーセキュリティを提供するEnsign InfoSecurity Pte Ltd、フルスペクトルの暗号化技術・製品を提供するD'Crypt Pte Ltdなどがある。

## 企業データ(2019/9/13)

ベータ値 0.72  
時価総額(百万SGD) 2,355  
企業価値=EV(百万SGD) 3,774  
3か月平均売買代金(百万SGD) 3.5



## 主要株主(2019/9)

(%)  
1. テマセク・ホールディングス 55.78  
2. 日本電信電話 9.90  
3. ブラックロック 4.99

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

## アナリスト

増淵 透吾  
togo.masubuchi@phillip.co.jp  
+81 3 3666 0707  
笹木 和弘  
kazuhito.sasaki@phillip.co.jp  
+81 3 3666 6980

## 業績推移

※参考レート 1SGD=78.63円

事業年度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12F
売上高(百万SGD)	2,396	2,410	2,362	2,335	2,295
当期利益(百万SGD)	341	272	201	183	162
EPS(SGD)	0.20	0.01	0.11	0.11	0.10
PER(倍)	6.75	135.00	12.27	12.27	13.50
BPS(SGD)	0.11	0.23	0.19	0.28	0.30
PBR(倍)	12.27	5.87	7.11	4.82	4.50
配当(SGD)	0.20	0.16	0.16	0.10	0.08
配当利回り(%)	14.81	11.85	11.85	7.41	5.93

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>